

産業発展論（川 端）演習

1 テーマ 世界と日本を動かす産業の構造とダイナミズムを分析する。産業発展論は、時間の経過に即した産業の変化を取り扱う科目です。

2 テキスト 未定。まず日本経済に関する本を材料に現代資本主義論の考え方を学び、それから産業研究の専門書を読みます。2011年度は最初に金子勝ほか『グローバル資本主義と日本の選択』で討論会を行い、それから震災という非常事態を受けて、「東日本大震災における生産・流通・通信ネットワークの寸断と再構築」の調査研究を行いました。

3 趣 旨 (1) 企業・業界分析ができるようになるろう！ (2) プレゼンテーションとレポート作成ができるようになるろう！ (3) 根拠のある自信をもって世界を語れるようになるろう！

4 募集人員 4月進級者、編入学者、10月進級者合計7名を目安とします。

5 参加条件

①無断欠席絶対不可。②ワード、エクセル、パワーポイント、インターネットメールを使います。ゼミに入ってから練習してもまにあいます。③川端担当年度の「企業論」も受講してください。④当ゼミは経済学ベースですが、経営学と重複する部分も少なくありません。⑤経済数学は必要ありません。⑥本・論文をよく読もうとする意志が必要です。

6 選考方法（4月進級予定者）

第1, 2次募集では、計7名まで無条件で受け入れます。7名を超えたときだけ選抜を行います。第3次募集は、2次募集までの参加決定者が5名以下の場合のみ行い、個別に面談して決定します。

7 運営方針

(1)ゼミ生が書いたものを形にすることを重視します。そのためにゼミ誌『研究調査シリーズ』があり、演習論文や調査報告を掲載します。(2)当ゼミは定性的分析、ケース・スタディが中心です。ひとつひとつの企業の行動や業界の出来事を理解し、そこにどういう経済的・社会的意義があるかを探ります。(3)当ゼミではミクロ経済学、マルクス経済学、経営学のいずれをベースにしても議論できますが、どれが一つは議論で使えるように基礎をよく身につけてください。(4)2月に打ち合わせを行い、春休みのレポート課題を出します。

(5)ゼミの内容は、以下の3つが中心です。a)テキスト輪読。b)各自がテーマを持って調査研究を進め、報告・討論。c)セミナーや見学旅行の企画や記録作成の会議。(6)学生の研究計画を書籍購入等で支援します。(7)前任教授時代から40年以上続くOB・OG会があり、年に1回「現代産業研究会」を行っています(工業経済研究会と合同)。各界で活躍されている卒業生や研究者の講演を聞き、交流できます。(8)様々な企業を年1回以上見学します。2010年度は自動車部品メーカーのアイシン東北、フタバ平泉を訪問しました。

8 担当教員の主要な研究業績

『東アジア鉄鋼業の構造とダイナミズム』ミネルヴァ書房、2005年、(大野健一との共編著)『ベトナムの工業化戦略』日本評論社、2003年、など。主に東アジアの産業について研究しており、日本、韓国、中国、タイ、ベトナムなどで実態調査を行っています。

9 指導教員が薦める本 自分が面白いと思った本を読んでもください。

10 「ゼミ見学」の可否 歓迎。金曜日14時40分に第8演習室へ来てください。途中退室・入室可。

11 10月進級者に対する特記事項 なし。

12 その他

教員のウェブサイトを見て、自分の関心とゼミの内容を比較してみてください。メールによる問い合わせも受け付けます。kawabata@econ.tohoku.ac.jpです。

演習論文で研究したい業種・企業は自由に選べます。2010年度のテーマは、「仙台堆朱の歴史と現状」(演習論文優秀賞受賞)「宮城県・東北地域の自動車産業集積による経済振興政策」でした。

就職先実績はメーカー(自動車、重機、鉄鋼、素材、医薬品、化学、エレクトロニクス)、金融・証券、サービス(不動産、テレビ局、コンサル、大学職員)、公務員など多岐にわたっています。

2011年度第1学期のゼミ参加者は18名(4年生×8、3年生×7、院生×3)(男性×14、女性×4)。ゼミ生の懇親会も盛んですが、飲酒を強要することはありません。

本気で学び、討論し、書こうとする人を待っています。